

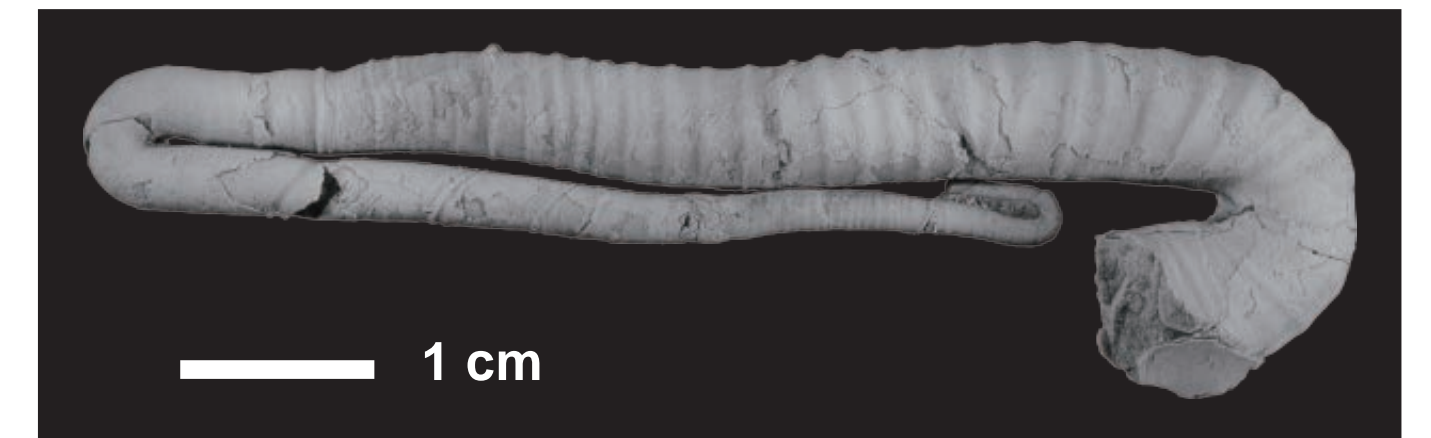
白亜紀異常巻アンモナイト類の分類学的研究

自然・環境評価研究部 地球科学研究グループ

生野 賢司



かつて 1 万種を超えるといわれるほど多様な種類が出現したアンモナイトの中には、「異常巻アンモナイト」と呼ばれる変わった巻き方をする仲間がいました。日本を含む北西太平洋地域に分布する白亜紀の地層（たとえば、淡路島の和泉層群や北海道の蝦夷層群）からは、異常巻アンモナイトの化石が豊富に産出することが知られています。ところが、異常巻アンモナイトはその特異な形態ゆえに殻が破片化しやすく、個体の全体がそろった標本を採取することが困難です。そのため、過去に記載された多くの種は断片的な標本に基づいて分類されています。私は、こうした問題を抱える後期白亜紀の異常巻アンモナイトであるポリプティコセラス属を対象として、種分類の見直しを進めています。多数の標本を観察することで、これまで別の種と考えられていた複数の「種」が、実は同じ種だった、といったことが解明できる可能性があります。



白亜紀の異常巻アンモナイト、ポリプティコセラス。
トロンボーンのような形をした殻が特徴です。



ポリプティコセラスと推定される異常巻アンモナイトの部分化石。
見つかる化石の大半はこのような断片的なもので、右上の写真の
ような標本は極めて稀である。標本の長さは右端のもので約 1.5 cm。

保存状態の良いアンモナイトが産出する北海道では、人里離れた山奥でヒグマと遭遇する恐怖におびえながら地質調査を行っています。写真中央で崖の地層を調べているのが筆者。

